

犬山市協働プラザ運営業務委託(第Ⅰ期)の事業実績について

1. 経過

犬山市協働プラザは、従来の市民活動支援センターから、事業内容や運営体制、設置場所などの見直しを行い、令和2年度4月1日から犬山市民交流センター1階に開設した。

運営事業者については、事業者選定の公募型プロポーザルを経て、“いぬやま協働まちづくりコンソーシアム ジョインいぬやま”が受託者となり、運営を行った。(契約期間：令和2年度～4年度)

受注者	いぬやま協働まちづくりコンソーシアム ジョインいぬやま	
構成団体 (5団体)	一般財団法人 地球子ども村 ※代表団体	一般財団法人
	(特非) こどもサポートクラブ東海	犬山市民活動登録団体・NPO法人
	まちかどボランティアセンター犬山	犬山市民活動登録団体・任意団体
	NPOももっぴ通信部	犬山市民活動登録団体・任意団体
	IMIカルチャーサークル	犬山市民活動登録団体・任意団体

2. 利用状況

協働プラザの利用人数	R2	R3	R4	合計
利用延べ人数合計(人)	5,465	4,843	5,002	15,310
稼働日数(日)	254	307	308	869
1日あたりの平均利用人数(人)	24.38	15.77	16.24	17.62

3. 実施事業の実績

(1) 受付管理業務

受付時間：月曜日～土曜日 9：00～17：00（受付：事業者職員2名体制）

事業や施設利用に関する問合せ対応、展示スペースやチラシラックの運用、印刷機や貸出備品の利用説明等を行った。

新型コロナウイルス感染症対策のため、利用者の記名や検温、交流スペース等の利用制限を実施。R4の7月から1ヶ月に1回夜間開放を実施（19：00まで）

(2) ホームページの運用管理及び情報発信業務

WEBサイトの構築・運営。わんまる一むNEWSの発行（春・夏・秋・冬号）。

(3) 地域資源バンクの運用業務

地域資源バンク件数	R2	R3	R4	合計
新規登録件数(件)	20	31	67	118
マッチング件数(件)	7	24	18	49

R2に市民活動登録団体の現況調査を実施し、活動実態を把握、分析。今までに蓄積された情報も整理し、団体インタビュー記事などと合わせて、専用WEBサイトを構築、運営。

(4) 相談・助言業務

相談業務実績	R2	R3	R4	合計
相談件数（件）	63	128	101	292

コンソーシアムの構成団体から専門性に合わせ、専門相談員を設置。

また、団体やサークルが活動をしていくために必要となる、活動紹介、広報、イベント企画・運営、仲間集め、会員獲得、団体運営、年間計画、運営資金など、事務局が担う部分の相談・情報交換ができる少人数の「ジムジム相談会」を実施。（R3～R4）

(5) フューチャーセッション@犬山の運営業務

FS@犬山実績	R2	R3	R4	合計
開催回数（回）	8	8	7	23
参加者数（人）	131	135	122	388
新規参加者数（人）	30	65	57	152
生じた事業数（件）	1	3	3	7

過去のフューチャーセッション参加者による有志団体「いぬやま倶楽部」と、目指す成果や役割分担について協議を重ね、協働で場づくりを実施。新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催でスタートし、状況に応じてリアルとオンラインでのハイブリット開催とした。

【フューチャーセッションをきっかけとして生じた事業】

年度	事業名	内 容
R2	犬山焼き土鍋とかまどでごはん	犬山焼きで土鍋を開発し、市内左官店のかまどと、今井地区の米をコラボさせ、犬山の資源を発信するイベントを実施。その後「犬山伝統と暮らしを楽しむ会」を結成し、市民活動団体に登録。
R3	ピクニックマルシェ	犬山伝統と暮らしを楽しむ会が犬山の資源を楽しむマルシェイベントを実施。
	竹のwa INUYAMA	うちわづくりの修行経験のある参加者が、他の参加者と共にうちわづくりのワークショッププログラムを作成。材料の調達先も確保し、市民活動団体に登録。
	いぬやま未来創造空間パレット	様々な大人から生き方を学ぶオンライン講座を実施。その後「いぬやま子ども未来創造空間パレット」として市民活動団体に登録。
R4	ありがとうプロジェクト	「お金ではないものとの交換」の社会実験として、犬山マルシェ内で手伝いのポイントと引き換えに工作ができる子供向けブースを出店。
	学生ボランティアネットワークつむぐ	ボランティア情報の少なさに困っていた高校生の参加者を中心に、SNSを使った学生向けボランティア募集情報とのマッチングネットワークを作成。
	ロスフラワーワークショップ	花屋で出るロスフラワーを再利用し、スタンプやメッセージカードを作成するワークショップを桃太郎マルシェに出店。

(6) 自主事業及び人材育成業務

主な自主事業実績		R2	R3	R4	合計
シンポジウム	参加者数（人）	38	38	40	116
	開催数（回）	1	6	6	13
人材育成研修会	参加者数（人）	6	50	33	89
	開催回数（回）	—	2	9	11
いぬやま地域つながるフェス	開催回数（回）	—	11	23	34
	参加団体数	—	—	18	18
いぬやまでばんシェア実践講座	参加者数（人）	—	—	18	18

※R3～R4 で地域資源バンクをシェアリングエコノミーで活用する WEB サイト「いぬやまでばん」を構築。

4. 成果・まとめ

開設当初からコロナ禍となり、施設の閉館、ワクチン接種会場としての利用、受付での来館者管理、什器の消毒、対面事業の制限などがあったものの、オンラインを試行錯誤で利用し、SNSを積極的に活用した情報発信に努めた。

実施事業では、地域資源バンクを活用したマッチングや、対話の場づくりであるフューチャーセッション、相談・伴走支援等、協働プラザ事業の一連の仕組みから7件の試行事業が生まれるなど、仕様に定められた事業を着実に進めた。

また、通常の生活においても制限を余儀なくされる中、市民活動団体等のニーズを把握しながら、Zoomの使い方講座や「いぬやま地域つながるフェス」などの自主事業を企画し、団体活動の維持、継続ができるようサポートするとともに、団体同士のつながりも促進するよう取り組みを行い、“つながる拠点”としての認知を深めることができた。

しかし、コロナ禍の影響もあり、市内各地域へのアウトリーチ活動が十分行えておらず、各コミュニティ推進協議会や町内会などの地域活動団体との関係性づくりや、協働プラザ事業全体の幅広い周知に課題を残した。

なお、運営事業者であるジョインいぬやまは、5団体のコンソーシアム体制であったこと、市の事業を受託した経験がなかったことなどもあり、協働による事業運営の難しさに直面し、意思決定の仕組みや判断基準等を構築するまでに1～2年の期間を要したが、構成団体間や担当課である地域協働課との綿密な協議を重ねながら事業を進め、新しい担い手による安定した運営体制を概ね構築することができた。

5. 次期（R5～R7）に向けた課題

- ・アウトリーチに向けた事務局体制の強化（スタッフの人材育成）
- ・事務能力の強化
 - 第Ⅱ期の委託料において、職員を増やす形で人件費を増額して積算。
 - R4 決算：9,900,000 円 → R5～予算：14,695 千円(単年)
- ・地域活動支援の充実、周知、関係性づくり
 - 第Ⅱ期の仕様において、“地域活動の担い手育成事業”を新設。
- ・地域資源バンク事業の周知、資源の利用ニーズに基づく登録内容の強化
 - シェアリングエコノミーによる活用を仕様書に明記。